

第 37 回庭野平和賞 受賞記念講演

【仮訳】

「平和のための緊急嘆願：共滅を回避し共存を築こう」

ポンニョン師

韓国 在家仏教教団 浄土会 創業者

まず初めに、庭野平和財団の創業者であり、平和の道の先駆者である庭野日敬師に敬意を表します。またその意を継いで多くの非営利団体の平和活動を支援し、諸宗教対話と協力を通じ世界平和に大きく貢献してこられた庭野平和財団の運営に携わる皆さまにも畏敬の念とともに心より感謝申し上げます。

本年、第 37 回庭野平和賞の受賞者に選ばれたことは、私にとって大変名誉なことです。私を選んでくださった庭野平和賞委員会に深く感謝申し上げます。併せて、私を推薦してくださったタイの偉大なる仏教思想家であり INEB(社会に関わる仏教徒の国際ネットワーク)創業者であられるスラック・シワラック博士にも心より感謝申し上げます。

2000 年に韓国のカン・ウォンヨン(姜元龍)牧師が、第 17 回庭野平和賞を受賞されました。カン・ウォンヨン牧師は、私に社会正義に対して目を開かせ、キリスト教における平和のビジョンを示してくださった方でした。故に、その方と同じ賞をいただけるということだけでも私にとりましては無上の光栄であります。

国際的に権威あるこの賞をいただきましたことは、私個人のみならず、今日に至るまでの二十数年間私と共に平和のための活動に挺身してきた全ての浄土会の同志にとりましても大変な励ましであります。そしてこの受賞の栄誉を、今もなお世界各地で平和のために献身的に活動しておられる有名、無名の全ての方々と共に分かち合いたいと思います。

私がおります浄土会では、万物は互いに密接に関わりながら存在するとの「縁起」に基づく世界観に立脚して「きよい心、よき友、きれいな大地」を目標に活動しております。きよい心とは、個人が自らの欲望をうまくコントロールしながら幸せな人生を送ることです。よき友とは、人と人との関係は競争や争いといった敵対関係ではなく、互いに助け合う、よき仲間関係であるべきことを心得て平和な社会を築くことです。きれいな大地とは、自然は人間が征服すべき対象ではなく、共に生きる生活の基盤であることを心得て美しい自然を保つことです。個人が幸福であり、社会が平和で、そして自然が美しい、そのような全ての人にとって住みやすい世の中、つまり「浄土」を築くために浄土会は活動しています。これこそ私たち浄土会の

過去 30 年にわたる活動の核心です。

庭野平和財団は仏教を基盤として設立されましたが、私たちが諸宗教協力による世界平和への道に導いてられました。

私も微力ではございますがこの二十数年間、異なる宗教指導者とともに朝鮮半島の平和に向け南北間の和解と協力、そして食糧難により困難を強いられている北朝鮮の住民や脱北難民に対する人道主義的支援事業を進めてまいりました。また、インドの不可触民、アフガニスタン難民、フィリピン・ミンダナオの原住民やムスリムを支援してまいりました。このような活動の中で飢餓、疾病、非識字等の絶対貧困の背後には、常に対立と敵意が存在することを直接体験しました。この敵意の解消なくして人道支援も、人権の保障も決して行うことができないということを認識しました。今日私たちが世界で目にするこのような対立と敵意を解消するためには、宗教をはじめあらゆる集団が互いに相異なるということを認め、理解したうえで共に協力することが必要です。敵意を滅しなければ平和は根付きません。お互いへの理解と深い敬意という豊かな土壌にのみ、平和の花は咲くのです。そのような和解なしには平和は来ません。

私は仏教徒として仏陀の生涯を最も大事な手本と考え行動の規範としてまいりました。仏陀が生きていた当時もバラモン教という宗教が存在し「ウパニシャッド」という哲学がありました。しかし当時の宗教はあまりにも権威主義的で哲学はあまりにも観念的であったため、現実に生きる衆生の苦しみを解決に導くことはできませんでした。仏陀の偉大さはこのような宗教や哲学の限界を直視し、新たな道である中道を見出されたことです。

中道とは、欲望の充足により得られる「快樂」と欲望を抑える「苦行」の両極端を離れた新たな道です。中道はいかなる偏見や観念にもとらわれることなく、ただ「事実はどうなのか」と真実を探求してすべての痛みや煩惱から抜け出す実践修行法です。すべての人類は自由かつ幸せな暮らしを送ることを願っています。しかしながらそれを成し遂げている人は極少数です。それは人々が、欲求を満たすことが幸せであるという間違った考えを持っているからです。仏陀の教えでは、自らの欲求から解放されてはじめて真の自由と幸せを享受することができると説いています。すべての人は幸せに生きる権利があります。自由と幸せは全人類が得たいと願う夢です。それでは、仏陀の教えによる、その夢の成就のために実践すべき三つのことがらをお分けしたいと思います。

まず一つ目は、平和です。

理念、宗教、国家の違いを超え、紛争に反対し平和を支持する活動には、対話と協働という視点が必要です。韓国は世界でも戦争が起こるリスクが最も高い国のひと

つに数えられます。2020年は朝鮮半島最大の悲劇であった朝鮮戦争が起きてから70周年を迎える年です。しかしながら戦争は未だ完全に終息しておらず、停戦状態のままです。朝鮮半島に再び戦争が起こり核兵器の使用や原子力発電所の爆破につながれば、朝鮮半島のみならず周辺国にも甚大な被害をもたらすでしょう。反対に朝鮮半島の平和は、アジアの平和にとどまらず世界平和につながる重要な架け橋になるでしょう。朝鮮半島の平和なしに世界平和は存在しません。

二つ目は、環境です。

世界的な気候危機は、環境運動家たちだけでは解決不可能です。開発途上国における環境生態系の破壊は、様々な敵意や対立に根ざしています。理念、宗教、民族、国家の違いを超えて気候危機の解決に向けた共同行動を今すぐ始めなければなりません。気候危機の影響は、国家の安全危機や食糧不足、伝染病、巨大山火事に至るまで、その深刻さを増しています。気候危機による災害に対しては、今や如何なる国も、どんな人でも、安全ではいられないのです。このような現象は紛れもない現代文明の危機です。より多く生産し、より多く消費することが良い暮らしとする消費主義から抜け出さなければなりません。今私たちは「人類の持続可能な発展」のために消費を減らすのか、それとも共倒れするのかという重大な岐路に立っています。気候変化への対応なくして世界市民の安全を保証することはできません。

三つ目は、構造的不平等の解消です。

構造的不平等は飢餓、疾病、非識字と差別に象徴されます。私が二十年前、飢えに苦しむ北朝鮮の子供たちに人道支援を最初に始めたとき、人々は「どうして敵に手を差し伸べるのか」と反対しました。更には「支援した米が弾になって帰ってくる」という反論も聞こえてきました。しかし私は信じています。思想、宗教、人種、性別に関係なく、ひもじい人には食事が、病気の人には治療が、子どもたちには教育が必要なのです。飢餓、疾病、非識字は人類社会において最も構造化された不平等です。飢えに苦しむ人には食べ物を、病に苦しむ人には薬を、難民には避難所を提供することは、何よりも最優先して取り組むべき解決なのです。そしてそれらの課題への取り組みは、どこかの一国家の責任ではなく、人類全体の責任においてなさねばなりません。さらに言うならば、どんな人も、人種、性別、階級、宗教、民族が異なるという理由で差別されるべきではありません。身体的障害、性的指向、難民という理由で差別してもいけません。人は一人の例外もなく、尊く、平等です。世界の果てのひどい貧困は地球規模の不平等の証でもあるのです。正義とは、差別をなくし平等を支える、あなた自身の行動です。行動なき正義は、単なる言葉遊びに過ぎません。

新型コロナウイルスの世界的大流行により今世界は大きな危機に直面しています。先進国と途上国、北半球と南半球、東洋と西洋、キリスト教と仏教に関係なく、新型

コロナウイルスを避けられる場所はどこにもありません。地球のみんなが手を取り合って行動することが重要なのです。しかし残念なことに、どの国も自国のことだけを考え、他の国を非難したり責任転嫁をしたりしています。今本当に危険なのは、新型コロナウイルスではなく、危険に直面して分裂された「私たち」です。このことが、コロナ禍解決の最大の障害となっているのです。しかし私たち人類は幾たびか、生存の危機に直面しながらも、想定外的能力を発揮し、奇跡的に生きのびてきた過去があります。どんな苦境にあっても希望を持ちお互いを信じる心をもって協力し合うことで、我々はどんな困難も乗り越えることができるでしょう。

もはや特定の地域、特定の宗教、特定の国家だけの平和は存在しません。

もはや特定の地域、特定の宗教、特定の国民だけの安全も存在しません。

平和、環境、構造的な不平等の問題解決と伝染病の拡散防止は、全人類が共同で対応し早急に解決しなければならない課題です。したがって世界中の宗教や国々の協働が、より重要になっているのです。これに向けて世界中の平和活動家そして各国の政治指導者や宗教指導者が協力し合えば、たとえ困難な問題でも解決することができるでしょう。心を合わせることで、奇跡は起きるのです。

あらためて申し上げますと、

平和の面では、国家は戦争の脅威なしに平和に共存しなければなりません、

環境に関しては、人は自然と調和して共存しなければなりません、

構造的な不平等を解決するには、様々な性別、人種、階層の人が平和に共存できるよう、構造的暴力を根絶しなければなりません。

本日のメッセージを一言で言えば「平和」です。共滅を回避して共存を築こう、ということです。

命あるすべてのものが幸せで平安でありますように。

最後に、私に貴重な機会をくださった庭野平和財団にあらためて敬意と感謝の意を表したいと思います。

皆さま、ご清聴ありがとうございました。